

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393300047		
法人名	有限会社 はっぴい		
事業所名	グループホーム はっぴい (おおしまユニット)		
所在地	愛知県蒲郡市三谷町伊与戸1番地2		
自己評価作成日	令和4年12月17日	評価結果市町村受理日	令和5年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2393300047-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2393300047-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	令和5年1月11日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

砥神(とがみ)山のふもとに位置し、少し歩けば三河湾が一望できる、山海共に恵まれた環境にあります。建物は三河の材木をふんだんに使った木造平屋建てで、食堂兼ホールは吹き抜けで天井が高く、窓も大きく明るく、ゆったりとした空間になっています。お祭り等の行事が盛んな地域で、それらに参加したり関連した催しを行い、季節行事以外にドライブ、買い物(現在は中止)等へ出かけ気分転換を図り、生活の中では、食事は3食共ホール併設のキッチンで職員が作り、音、匂い等で家族的な雰囲気を感じて頂き、一緒に楽しめる様に支援しています。誕生月は随時個別に希望を伺い、添えるよう対応しています。地域や家族とともに支え合いながら、毎日を安心して暮らして頂けるよう支援しています

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所、職員トイレに理念のパネルを掲げ、職員が常時意識できるようにしています。月に1度の会議では、理念を唱和し共有を図っています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りへの参加、青年団による伝統行事を披露し、甘酒、飲料をふるまう等交流に努めています。ボランティアを受け入れ(現在は中止)定期的に交流を持ち、近隣小中学校の資源回収にも協力しています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について地域の人々に理解を深めて頂く為、運営推進会議の場で、地域資源の活用方法等の支援方法を伝えて活かせる様に努めています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1回実施、現状報告(施設行事、利用者の状況等)を行い、委員の方から一人ずつ意見をお伺いしています(書面開催時はアンケートにて意見を伺う)。職員会議で報告し、サービス向上に活かせる様にしています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員として市の担当者の方に参加して頂き、情報交換等を行っています。役所訪問時に情報提供して頂いたり、市のネットワークに登録し、情報を早急に得て業務に活かしています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての内部研修を行い、基本の反復を行い、拘束の無いケアに取り組んでいます。利用者の安全面を考え玄関の施錠はしているが、外出を望む方の希望には極力応える様にしています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の際に「虐待」についての内容、特に「グレーゾーン」について、利用者主体の点において振り返りを行い、職員間でお互い注意喚起し、虐待を見逃さない体制作りに努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度においては対象者が当事業所にはいない為、全スタッフが理解、把握出来ているかは不明です。権利擁護に関しては、施設内研修時に講習を行っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に重要事項を基に説明し、改定時には書面にて説明を行っています。事業所の方針は、対応可能な範囲についての説明を行い、疑問や不安点を確認、同意された上で署名、捺印をして頂いています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族会を開催(本年度は書類開催)し、意見、要望をお聞きして検討し、運営に反映させています。1年をスライドで振り返り、毎月は施設便りを各家族に郵送しています。利用者さんの体調、言動等日常生活面での報告も行っています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回施設会議を行い、利用者個々の状況報告と確認後、意見交換を行っています。代表者や管理者は随時職員からの意見や提案を聞く機会を持ち、検討後業務に反映させています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回6月、12月に役員面談を実施し、職員個々の勤務状況及び人間関係の問題点を確認しています。問題点を把握し改善をする事で、職員が働きやすい環境づくりを徹底しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回実施している施設会議において、毎回テーマを決め、勉強会を実施しています。研修会のお知らせは事務所に掲示し、各ユニットリーダーは、随時職員の技術指導を行っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の催事に参加し(本年度は中止)、交流を図っています。グループホーム協会東三河ブロックラインでつながり、その中での意見交換を行い、自施設のサービス向上に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族に同意を取り、本人と面談をさせて頂き、本人の現全体像、状況を把握しています。入所後は本人の様々な反応を見極め、安心して新しい生活になじんで頂けるような関係づくりに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に家族の不安、ご要望等をお聞きしサービスに取り入れ、利用者との関係も大切にしながらサービスを提供し、信頼関係を築いていかれるよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のご要望及び情報を基に、その時必要な支援を見極め職員に周知、意見を出し合い、それに適したサービスを提供出来る様に努めます		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の「出来る事」「やりたい事」を入居者同士や職員と一緒にいき、皆で共同生活を行う仲間としての関係を築いています。利用者の状況に応じた対応調整を図り、共に支えあいが出来るよう努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族に写真入り施設だよりを送り、行事予定、近況報告を行っています。家族の面会時には、利用者の現状を報告、家族の意向を確認し、共に利用者を支えていかれる関係づくりに努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者同士、職員との会話からの繋がりが分かり、話が展開していく中で、思い出を呼び起こす事も多くあります。書面情報以外に得られる情報も職員間で共有し、支援に努めています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を見守り、対応を調整しながら、お互いが支えあう関係を築いていかれる支援を心掛けています。職員各々が利用者個々の特性を把握するよう、情報交換、共有に努めながら支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、近隣の方が多い為近況がわかったり、家族に会う事が多く、必要時には相談に応じ、支援させて頂いています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、入居者様の希望や思いを汲み取り、得た情報は職員間で共有し、時には職員再度から提案をさせて頂く等、利用者本位を基本に検討しています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、本人、家族からこれまでの生活、状態についてお話を伺うと共に、利用していた事業所からも、情報の提供をしていただいています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況は申し送り、PC入力し職員間で情報を共有しています。周知が必要な事は当日出勤職員に伝えると共に、事務所の申し送りノートに記入し、サインチェックを行っています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者個々のケアプラン実施表記入で1日、月末単位、出来ること出来ないことシートで見直し時に評価し、計画の見直しを図っています。現況に即した介護計画を作成する様に努めています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や、変化、気づき、ケアについて個別にPC入力を行い、職員間で情報の共有を図っています。会議時に情報を検討、意見交換を行い、介護計画の見直しを図っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人にとって今必要な支援や環境等を考え、ボランティアの受け入れ、利用(今年はコロナで中止)、外出等、柔軟な対応を行っています。医療機関の受診は、コロナ対応策をとり行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お茶、読み聞かせ等のボランティアの受け入れ、地域行事等、積極的に参加(現在は中止)しています。消防と協力し利用者と共に防災訓練を行う等、安全な暮らしを提供できる様に取り組んでいます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に家族と主治医を決めています。月1回の主治医の訪問診療の他、必要時は受診し、連携を図っています。他科受診については家族対応ですが、難しい場合は職員が代行し結果を家族に報告しています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常に入居者様の心身の状況を見極め、看護師に報告を行い、状態に応じて病院への受診等を受けられる様に支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をした際には面会に何うと共に、病院関係者に状態を聞き、本人や家族が安心して治療を受ける事ができるよう努めています。病院とは定期的に連絡を取り、情報交換を行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化又終末期については、契約時家族に基本的には看取りはしない事を説明し、同意を得ています。医療機関と連携を図り、他施設へ移動の際は本人と家族に情報提供をしっかりと行い、不安を和らげ理解をして頂くよう努めています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、勉強会を行い職員に周知しています。事故発生時には職員会議等で事例検討を行い、マニュアルの再確認、見直しを図っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、火災想定避難訓練を消防署員立ち合いの下、出勤職員、入居者様全員参加で行っています。災害時の備蓄用品は内容の随時見直し、ローリングストック法を実施し、利用者個々に防災頭巾を用意しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の羞恥心、プライバシーに配慮し、一律ではない、利用者個々に応じた言葉かけや対応を心掛けています。施設内研修にて、職員周知に努めています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に寄り添った対応を図る事で、日々の生活を安心して過ごして頂けるよう心掛けています。個々の利用者が、希望や思いを表現したり、自分で決める事が出来、笑顔で生活が出来るよう努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおよその流れは決まっていますが、本人の言葉、仕草、行動から状況を把握し、希望に添えるよう柔軟な対応に努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問美容で、カットと顔そりを行っています。各居室には洗面台が設置してあり、可能な方は自由に使われています。男性利用者の髭剃りは、自分で剃って頂けるよう支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲で料理の下ごしらえ等を行って頂き、準備中に聞こえる音、匂いが話の糸口になることもあります。献立のアイデアを利用者から伺い、生かす事もあります		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを工夫し、利用者個々にあった食事形態にて提供しています。利用者個々が使いやすい食器や、自助食器を使って頂いています。食前には嚥下体操を行ったり、季節の歌を歌っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じてケア用品を用い、ケア時には職員が付き添っています。夜間は義歯を外し、定期的に義歯、ケア用品の消毒を行い、歯科受診時にはアドバイスを頂き、ケアに役立てています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェックシートを活用し、利用者の状態にあった声掛けと対応を心掛けています。個々に適した衛生用品を勧め、利用者さんの心身の負担を減らすよう努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶は常時飲むことが出来るよう準備しています。朝食には乳製品を提供し、水分や食物繊維、油分を意識した献立を用いています。定期的な運動、マッサージ等を行い、油分、水分補給等薬に頼らない便秘予防に取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しておおまかな設定はありますが、状況やタイミングに時間を合わせる等の配慮をし、個々に沿った支援をしています。ゆず湯、菖蒲湯等を用意し、季節を感じて頂いています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーションへの参加、散歩等、生活リズムを整えるように努めています。個々の状況に合わせてエアコンで室内温度を調整し、眠剤等は使用せず安心して気持ちよく安眠出来る様に支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容はファイリングし、薬は一包化し名前と日付、ライン印をつけています。服薬時には印字を読み上げ、利用者と一緒に確認しています。薬変更時には経過観察を行い、看護師、医師に報告しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事関連事は利用者の出来る範囲で行って頂いています。定期的なボランティア(お抹茶会、読み聞かせ等)は現在中止していますが、日常生活の中では、利用者と一緒に楽しく生活を送れるよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではあるが、散歩は、利用者の状態に応じて福祉用具等を利用し、回覧板は利用者と一緒に届けています。利用者の希望を伺い、家族とも相談、協力を得て、希望に添える支援を行っています		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の小遣いは施設預かり管理ですが、自己管理可能、お金がないと不安を感じる方は、家族と相談し少額のお金を自己管理されています。預かりの小遣いは出納帳をつけ、毎月家族に明細を発行しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には事務所の電話を使用して頂き、家族へ取次ぎを行っています。手紙は家族へ報告の上、本人へ渡しています。やり取りを希望される方には必要品を準備し、ポストへ投函させて頂いています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、季節に応じた展示物、写真を飾っています。窓は大きく、光を十分取り入れる事が出来るため明るく、木造建築の平屋造りで、天井が高く吹き抜けになっている事も、ゆったりとしています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファと、大テーブル、人数分の椅子が設置してあり、塗り絵や、画像付きのカラオケ機器を用意しています。利用者さんが自由に過ごす事が出来るよう、ゆったりとした共有空間になっています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんの安全面を考慮した上で、自宅で使用し慣れ親しんだ家具等を持って来て頂き、生活の場を作っています。家族の写真やプレゼントされた花等を飾ったりし居心地良く過ごせる様に調整をしています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで扉は引き戸になっています。廊下は幅広で、手すりがあり、車いすやシルバーカーが移動がしやすい様になっています。廊下、トイレの照明は人感センサーで作動するようになっています		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393300047		
法人名	有限会社 はっぴい		
事業所名	グループホーム はっぴい (たけしまユニット)		
所在地	愛知県蒲郡市三谷町伊与戸1番地2		
自己評価作成日	令和4年12月17日	評価結果市町村受理日	令和5年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigovsvCd=2393300047-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigovsvCd=2393300047-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	令和5年1月11日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

砥神(とがみ)山のふもとに位置し、少し歩けば三河湾が一望できる、山海共に恵まれた環境にあります。建物は三河の材木をふんだんに使った木造平屋建てで、食堂兼ホールは吹き抜けで天井が高く、窓も大きく明るく、ゆったりとした空間になっています。お祭り等の行事が盛んな地域で、それらに参加したり関連した催しを行い、季節行事以外にドライブ、買い物(現在は中止)等へ出かけ気分転換を図り、生活の中では、食事は3食共ホール併設のキッチンで職員が作り、音、匂い等で家族的な雰囲気を感じて頂き、一緒に楽しめる様に支援しています。誕生月は随時個別に希望を伺い、添えるよう対応しています。地域や家族とともに支え合いながら、毎日を安心して暮らして頂けるよう支援しています

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所、職員トイレに理念のパネルを掲げ、職員が常時意識できるようにしています。月に1度の会議では、理念を唱和し共有を図っています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りへの参加、青年団による伝統行事を披露し、甘酒、飲料をふるまう等交流に努めています。ボランティアを受け入れ(現在は中止)定期的に交流を持ち、近隣小中学校の資源回収にも協力しています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について地域の人々に理解を深めて頂く為、運営推進会議の場で、地域資源の活用方法等の支援方法を伝えて活かせる様に努めています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1回実施、現状報告(施設行事、利用者の状況等)を行い、委員の方から一人ずつ意見をお伺いしています(書面開催時はアンケートにて意見を伺う)。職員会議で報告し、サービス向上に活かせる様にしています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員として市の担当者の方に参加して頂き、情報交換等を行っています。役所訪問時に情報提供して頂いたり、市のネットワークに登録し、情報を早急に得て業務に活かしています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての内部研修を行い、基本の反復を行い、拘束の無いケアに取り組んでいます。利用者の安全面を考え玄関の施錠はしているが、外出を望む方の希望には極力応える様にしています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の際に「虐待」についての内容、特に「グレーゾーン」について、利用者主体の点において振り返りを行い、職員間でお互い注意喚起し、虐待を見逃さない体制作りを努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度においては対象者が当事業所にはいない為、全スタッフが理解、把握出来ているかは不明です。権利擁護に関しては、施設内研修時に講習を行っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に重要事項を基に説明し、改定時には書面にて説明を行っています。事業所の方針は、対応可能な範囲についての説明を行い、疑問や不安点を確認、同意された上で署名、捺印をして頂いています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族会を開催(本年度は書類開催)し、意見、要望をお聞きして検討し、運営に反映させています。1年をスライドで振り返り、毎月は施設便りを各家族に郵送しています。利用者さんの体調、言動等日常生活面での報告も行っていきます		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回施設会議を行い、利用者個々の状況報告と確認後、意見交換を行っています。代表者や管理者は随時職員からの意見や提案を聞く機会を持ち、検討後業務に反映させています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回6月、12月に役員面談を実施し、職員個々の勤務状況及び人間関係の問題点を確認しています。問題点を把握し改善をする事で、職員が働きやすい環境づくりを徹底しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回実施している施設会議において、毎回テーマを決め、勉強会を実施しています。研修会のお知らせは事務所に掲示し、各ユニットリーダーは、随時職員の技術指導を行っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の催事に参加し(本年度は中止)、交流を図っています。グループホーム協会東三河ブロックラインでつながり、その中での意見交換を行い、自施設のサービス向上に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族に同意を取り、本人と面談をさせて頂き、本人の現全体像、状況を把握して頂きます。入所後は本人の様々な反応を見極め、安心して新しい生活になじんで頂けるような関係づくりに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に家族の不安、ご要望等をお聞きしサービスに取り入れ、利用者との関係も大切にしながらサービスを提供し、信頼関係を築いていかれるよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のご要望及び情報を基に、その時必要な支援を見極め職員に周知、意見を出し合い、それに適したサービスを提供出来る様に努めます		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の「出来る事」「やりたい事」を入居者同士や職員と一緒にいき、皆で共同生活を行う仲間としての関係を築いています。利用者の状況に応じた対応調整を図り、共に支えあいが出来るよう努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族に写真入り施設だよりを送り、行事予定、近況報告を行っています。家族の面会時には、利用者の現状を報告、家族の意向を確認し、共に利用者を支えていかれる関係づくりに努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者同士、職員との会話からの繋がりが分かり、話が展開していく中で、思い出を呼び起こす事も多くあります。書面情報以外に得られる情報も職員間で共有し、支援に努めています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を見守り、対応を調整しながら、お互いが支えあう関係を築いていかれる支援を心掛けています。職員各々が利用者個々の特性を把握するよう、情報交換、共有に努めながら支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、近隣の方が多い為近況がわかったり、家族に会う事が多く、必要時には相談に応じ、支援させて頂いています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、入居者様の希望や思いを汲み取り、得た情報は職員間で共有し、時には職員再度から提案をさせて頂く等、利用者本位を基本に検討しています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、本人、家族からこれまでの生活、状態についてお話を伺うと共に、利用していた事業所からも、情報の提供をしていただいています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況は申し送り、PC入力し職員間で情報を共有しています。周知が必要な事は当日出勤職員に伝えると共に、事務所の申し送りノートに記入し、サインチェックを行っています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者個々のケアプラン実施表記入で1日、月末単位、出来ること出来ないことシートで見直し時に評価し、計画の見直しを図っています。現況に即した介護計画を作成する様に努めています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や、変化、気づき、ケアについて個別にPC入力を行い、職員間で情報の共有を図っています。会議時に情報を検討、意見交換を行い、介護計画の見直しを図っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人にとって今必要な支援や環境等を考え、ボランティアの受け入れ、利用(今年はコロナで中止)、外出等、柔軟な対応を行っています。医療機関の受診は、コロナ対応策をとり行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お茶、読み聞かせ等のボランティアの受け入れ、地域行事等、積極的に参加(現在は中止)しています。消防と協力し利用者と共に防災訓練を行う等、安全な暮らしを提供できる様に取り組んでいます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に家族と主治医を決めています。月1回の主治医の訪問診療の他、必要時は受診し、連携を図っています。他科受診については家族対応ですが、難しい場合は職員が代行し結果を家族に報告しています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常に入居者様の心身の状況を見極め、看護師に報告を行い、状態に応じて病院への受診等を受けられる様に支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をした際には面会に何うと共に、病院関係者に状態を聞き、本人や家族が安心して治療を受ける事ができるよう努めています。病院とは定期的に連絡を取り、情報交換を行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化又終末期については、契約時家族に基本的には看取りはしない事を説明し、同意を得ています。医療機関と連携を図り、他施設へ移動の際は本人と家族に情報提供をしっかりと行い、不安を和らげ理解をして頂くよう努めています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、勉強会を行い職員に周知しています。事故発生時には職員会議等で事例検討を行い、マニュアルの再確認、見直しを図っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、火災想定避難訓練を消防署員立ち合いの下、出勤職員、入居者様全員参加で行っています。災害時の備蓄用品は内容の随時見直し、ローリングストック法を実施し、利用者個々に防災頭巾を用意しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の羞恥心、プライバシーに配慮し、一律ではない、利用者個々に応じた言葉かけや対応を心掛けています。施設内研修にて、職員周知に努めています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に寄り添った対応を図る事で、日々の生活を安心して過ごして頂けるよう心掛けています。個々の利用者が、希望や思いを表現したり、自分で決める事が出来、笑顔で生活が出来るよう努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおよその流れは決まっていますが、本人の言葉、仕草、行動から状況を把握し、希望に添えるよう柔軟な対応に努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問美容で、カットと顔そりを行っています。各居室には洗面台が設置してあり、可能な方は自由に使われています。男性利用者の髭剃りは、自分で剃って頂けるよう支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲で料理の下ごしらえ等を行って頂き、準備中に聞こえる音、匂いが話の糸口になることもあります。献立のアイデアを利用者から伺い、生かす事もあります		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを工夫し、利用者個々にあった食事形態にて提供しています。利用者個々が使いやすい食器や、自助食器を使って頂いています。食前には嚥下体操を行ったり、季節の歌を歌っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じてケア用品を用い、ケア時には職員が付き添っています。夜間は義歯を外し、定期的に義歯、ケア用品の消毒を行い、歯科受診時にはアドバイスを頂き、ケアに役立てています		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェックシートを活用し、利用者の状態にあった声掛けと対応を心掛けています。個々に適した衛生用品を勧め、利用者さんの心身の負担を減らすよう努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶は常時飲むことが出来るよう準備しています。朝食には乳製品を提供し、水分や食物繊維、油分を意識した献立を用いています。定期的な運動、マッサージ等を行い、油分、水分補給等薬に頼らない便秘予防に取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しておおまかな設定はありますが、状況やタイミングに時間を合わせる等の配慮をし、個々に沿った支援をしています。ゆず湯、菖蒲湯等を用意し、季節を感じて頂いています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーションへの参加、散歩等、生活リズムを整えるように努めています。個々の状況に合わせてエアコンで室内温度を調整し、眠剤等は使用せず安心して気持ちよく安眠出来る様に支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容はファイリングし、薬は一包化し名前と日付、ライン印をつけています。服薬時には印字を読み上げ、利用者と一緒に確認しています。薬変更時には経過観察を行い、看護師、医師に報告しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事関連事は利用者の出来る範囲で行って頂いています。定期的なボランティア(お抹茶会、読み聞かせ等)は現在中止していますが、日常生活の中では、利用者と一緒に楽しく生活を送れるよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではあるが、散歩は、利用者の状態に応じて福祉用具等を利用し、回覧板は利用者と一緒に届けています。利用者の希望を伺い、家族とも相談、協力を得て、希望に添える支援を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の小遣いは施設預かり管理ですが、自己管理可能、お金がないと不安を感じる方は、家族と相談し少額のお金を自己管理されています。預かりの小遣いは出納帳をつけ、毎月家族に明細を発行しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には事務所の電話を使用して頂き、家族へ取次ぎを行っています。手紙は家族へ報告の上、本人へ渡しています。やり取りを希望される方には必要品を準備し、ポストへ投函させて頂いています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、季節に応じた展示物、写真を飾っています。窓は大きく、光を十分取り入れる事が出来るため明るく、木造建築の平屋造りで、天井が高く吹き抜けになっている事も、ゆったりとしています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファと、大テーブル、人数分の椅子が設置してあり、塗り絵や、画像付きのカラオケ機器を用意しています。利用者さんが自由に過ごす事が出来るよう、ゆったりとした共有空間になっています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんの安全面を考慮した上で、自宅で使用し慣れ親しんだ家具等を持って来て頂き、生活の場を作っています。家族の写真やプレゼントされた花等を飾ったりし居心地良く過ごせる様に調整をしています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで扉は引き戸になっています。廊下は幅広で、手すりがあり、車いすやシルバーカーが移動がしやすい様になっています。廊下、トイレの照明は人感センサーで作動するようになっています		